

新型コロナの感染を恐れ、 通所サービスを休むこと

あるケアプラン作成利用者さんのご家族から電話が入りました。

利用者さんというのは「要介護1」、基礎疾患に糖尿病をもつ女性です。コロナウイルスの感染流行前は「こんなにたくさん利用するの？」と言うくらいデイサービスがお好きで通っていた方です。そんな方がコロナの感染流行後、サービスの利用を中止してしまいました。

電話口のご家族から寄せられた言葉は「先日脳梗塞を起こし、亡くなった」という悲報。危惧していた事態がついに起きてしまいました。

高齢者が健康を維持するには安静ではなく、適度な運動が欠かせません。そのことが免疫力も高め、コロナウイルスに対抗出来る身体を作ることになると思います。ですから、感染防止策をとりながら、運動は続ける事が必要なのです。しかし、感染の不意が行動をとどめてしまったのです。もちろんこの方の脳梗塞がそのせいだとは言いきれはしません。ですが、この間の新聞報道を見るとサービスを休んだ人が重度化しているとありました。ですのでその可能性は全面的に否定出来るものでもありません。

ケアプラン作成を担当したものとして今回の出来事は残念でなりません。心からご冥福をお祈り致します。

そしてみなさんにおかれましては、ぜひサービスの利用で体力を維持し、コロナに負けない身体を作って頂きたいと思います。悲劇はもうたくさんです。

家族のためのユマニチュード

“その人らしさ”を取り戻す、優しい認知症ケア



著者: イヴ・ジネス
著者: ロゼット・マレスコッティ
著者: 本田美和子

定価(税込) 1,760円
発売日 2018年08月24日

ISBN978-4-416-51873-1

認知症のケアに悩む方は多くいます。それは在宅に限らず施設や病院でも同じです。その結果が虐待をもたらすこともあるのです。その悩みの根源は介護の現場が常に人が足りない、余裕のなさにあることは間違いありません。

それに加え、認知症を知ることができていないことがさらに問題を複雑にして、現場の家族、労働者だけではなく認知症を患う当事者を追い詰めているのです。

認知症を知る＝原因、それを抑える薬を知るでは問題を緩和することができません。これまでの日本の医療と介護はそこに目が向いていたのです。だから「やっかい」になると拘束したり、薬で鎮静する事があたりまえになっています。

ユマニチュードは「人間らしさを取り戻す」というフランス語の造語です。

認知症のひとへの関わり方を変えることで介護のイライラや困りごとを軽減出来るという実践です。

平易な言葉と介護を行う側の対応の変化でお年寄りの行動が変わるので



有限会社 おとくに福祉研究所

きょうと福祉倶楽部 ☎075-958-2560

長岡京市天神4丁目 7-12 ハイツ東台101